

精神障害者の地域生活定着に固有なストレングス要素の検討

—ソーシャルワーカーへのヒアリング調査からの考察—

○ 京都府立大学大学院 氏名 山東 綾乃 (8524)

キーワード：精神障害者、地域生活、ストレングス

1. 研究目的

近年、日本の精神障害者支援は「入院医療中心から地域生活移行へ」という方針が進められている。しかし現実には、服薬の必要性や病識をもちづらい、あるいは地域資源をうまく活用できないことから、退院後も入退院や再発を繰り返す精神障害者が多く存在している。そのため、彼らの地域生活定着は大きな課題となっている。そこで、その問題を解決するためには、精神障害者のもつ地域生活を継続していくための強さや地域資源の力、つまり潜在化しているストレングスをパワーに変えていくための支援が必要であると考えている。それゆえ、昨年度の学会では「ストレングス視点にもとづく精神障害者の地域生活定着支援の研究」というテーマで、先行研究と事例分析から精神障害者の地域生活定着に固有なストレングス視点を用いた支援の意義を報告した。しかしながら、昨年度の報告では、先行研究から抽出したストレングス要素の効果を中心に報告したため、ストレングス要素そのものの精査が課題として残った。

そこで今回の報告では、昨年度の報告をふまえ、現場のソーシャルワーカー（以下、ワーカー）へのヒアリング調査から、地域生活定着支援にかかわる実践者が共通に理解し活用できるストレングス要素の項目や内容を明らかにしてみたいと考えている。

2. 研究の視点および方法

昨年度の学会では、ストレングスの視点から精神障害者の地域生活定着支援事例を分析し、先行研究から整理した固有なストレングス要素を活用した支援の効果を明らかにした。しかしそこには、実践を通してストレングス要素の項目や具体的な内容を検証するという課題が残った。

そのため、今回の継続研究では、先行研究を再度渉猟し整理するとともに、ワーカーへのヒアリングを行い、固有なストレングス要素の精緻化を試みた。このことは、理論研究の検証として位置づけられ、実践活用への糸口となると考えている。とくに調査では、地域生活定着支援にかかわる障害者生活支援センターや就労継続支援B型事業所のワーカーへのヒアリングを実施し、ストレングス要素の再検討と検証を試みた。そこでは、①ストレングス要素の再整理と新たな要素の検討、②要素の具体的な内容の整理と妥当性の検証、③ストレングス要素の活用にかかる課題の検討、に焦点化して分析を行っていった。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針にもとづき行っている。とくにヒアリング調査では、調査対象者に研究の目的や方法、成果の公表方法、個人情報保護等の倫理的配慮について文章や口頭で説明し、同意を得たうえで実施した。また得られたデータの管理・保存を徹底し、それらを取り扱う際には細心の注意を払った。

4. 研究結果

まず理論研究では、これまでの研究成果や先行研究から、項目内容の具体化など、ストレンクス要素の再整理を行った。そしてその結果をふまえ、ヒアリング調査では、項目や内容の妥当性を検証し、地域生活定着支援実践に活用できる固有なストレンクス要素を検討するとともに、活用に向けた支援の現状把握を行った。その結果は、次のとおりである。(なお、詳細は当日の資料で示す予定。)

- (1) 地域生活定着支援に固有なストレンクスの再整理
 - －第一次カテゴリーから第二次カテゴリーへの内容項目の細分化
- (2) 実践に活用可能なストレンクス要素の検討
 - －精神障害の特性と地域生活継続の課題に沿ったストレンクス要素の明確化
- (3) スtrenクス要素の言語化による効果
 - －利用者のもつ力や地域資源の包括的な把握、「地域生活者」としての利用者理解

5. 考察

今回の研究では、先行研究とヒアリング調査の結果から、地域生活定着支援に固有なストレンクス要素を実践で活用可能なものとして精査し、その内容を明確化することができた。また、ストレンクス要素を具体化したことで、次の3点の効果が期待できると考えている。

- ①個人・環境にある固有なストレンクス要素への意識的な着目
- ②ストレンクス要素の言語化による包括的な利用者ストレンクスの活用
- ③利用者ストレンクスを中心とした利用者主体の支援展開

しかし一方で、ヒアリング調査からは、支援者が意識してストレンクス要素を発見し、その情報を利用者システムと共有しながら、利用者本人の活用を支援するという一連の展開に、次の2点で課題がみられた。

- (1) スtrenクス要素の実践活用に向けた課題
 - －支援者が意識的にストレンクス情報を把握し、効果的に活用するための方法論の未確立
- (2) 地域生活定着支援に固有なアセスメント方法や技術の体系化にかかる課題
 - －利用者と協働でストレンクスの情報を認識・評価するプロセスや方法の構築